



NFC所蔵作品選集

# MoMAK FILMS

2013.10 — 12

NFC所蔵作品選集

# MoMAK FILMS

2013 10 Oct. 12 Dec.

Information

上映時間 | 各回14:00-18:00頃(開場は13:30)

上映作品は予告なく変更する場合があります。上映作品、各回のスケジュールについては京都国立近代美術館HPにてご確認ください。  
[www.momak.go.jp/films/](http://www.momak.go.jp/films/)

料金 | 1プログラム 500円(当日券のみ)

\*本券でコレクション展もご覧いただけます。

先着100席

入場券は会場入口にて販売します。当日13:30より当日分のすべての作品の整理番号つき入場券を販売、開場します。各回入替制です。2回目は上映開始の10分前に開場します。会場内での飲食はご遠慮ください。

主催 | 京都国立近代美術館(MoMAK)  
東京国立近代美術館フィルムセンター



企画協力 | 川村健一郎(立命館大学映像学部准教授)  
富田美香(立命館大学映像学部准教授)

Exhibition

Reading Cinema, Finding Words:  
Art after Marcel Broodthaers

映画をめぐる美術 —  
マルセル・ブロータースから始める

会期 | 2013年9月7日[土]—10月27日[日]  
開館時間 | 午前9時30分—午後5時

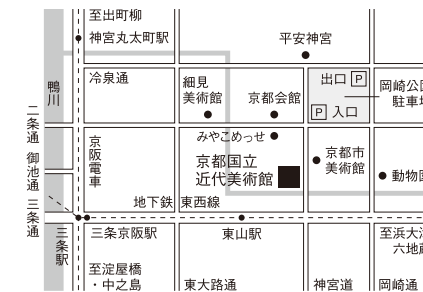
\*会期中の金曜日と9月7日[土]、10月26日[土]は午後8時まで開館(入館はいずれも閉館30分前まで)

休館日 | 毎週月曜日(ただし、祝日は開館し、翌火曜日休館)  
観覧料 | 一般850円, 大学生450円, 高校生以下無料

詩人として出発したベルギー出身の芸術家マルセル・ブロータースは、映画を書くための手法として位置づけ、イメージと言語、虚構と現実世界をめぐる新たな関係性を提案しました。今回の展覧会では、ブロータースによる映画に関するテキストやプロジェクトを参照軸として、国際的に活躍する美術家13名によるフィルム、写真、ビデオ、インスタレーション等の作品を紹介します。

access

京都国立近代美術館  
〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町  
TEL 075 761 4111  
[www.momak.go.jp](http://www.momak.go.jp)



- ・JR・近鉄京都駅前(A1のりば)からバス5番 岩倉行「京都美術館前」下車すぐ
- ・JR・近鉄京都駅前(D1のりば)からバス100番(急行)銀閣寺行「京都美術館前」下車すぐ
- ・阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三條駅からバス5番 岩倉行「京都美術館前」下車すぐ
- ・阪急烏丸駅・河原町駅、京阪祇園四條駅からバス46番 平安神宮行「京都美術館前」下車すぐ
- ・市バス他系統「東山二条」または「京都美術館前」下車徒歩約5分
- ・地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分

## MoMAK F Column

← 002 → 美術館で映画を観る2

MoMAK Filmsでは、東京国立近代美術館フィルムセンター(NFC)の収蔵プリントを上映しています。これは言いかえれば、MoMAK Filmsが、美術館のポスター展や写真展と同じように、“美術館の収蔵品(=フィルム)を鑑賞する場”であることを意味しています。そのため、上映作品の選定から、収蔵プリントの状態チェック、フィルムの移送、上映準備、上映、とすべてのプロセスにおいて、収蔵品のフィルムを通して映画作品の真正な姿を再現できるように、それと同時に、収蔵品のフィルムを傷めないように、細心の注意が払われています。今回はこの全工程の要となっている映写について紹介しましょう。

MoMAK Filmsの最大の特徴は、実はこの映写にあるのかもしれませんが。具体的には、映写機自体も移動・交換可能な機動力のある映写室、そしてそれを支える映写技師(有限会社シネマトグラフィアー)さんたちの熱意と創意に満ちた技術力です。

映画作品の真正な姿を再現する、ということは、

例えばサイレント映画を上映する場合、トーキー以降の通常の映画とは、映写スピードが違いますし、スタンダードでもサイズが異なります。トーキー以後の映画でも、画面の縦横比や音の記録方式には、複数の種類があります。そして、フィルムにも、35mmや16mmといった、サイズ幅の違いがあります。MoMAK Filmsでは複数のフィルムを組み合わせるプログラムを考案することが多いため、一作ずつこれらの状況が異なる中で、真正な上映をできるかどうか、常に映写技師さんの意見をお聞かせします。すると直ちに、「大丈夫です」という力強い返事をいただけます。2010年の荻野茂二特集、2011年のアニメーション特集、そして今年のMoMAK開館記念で松本俊夫氏の『つぶれかかった右眼のために』(プリント提供:イメージフォーラム)を三面映写できたことも、この映写力に依っているとイえるでしょう。上映も、プリント状態の問題で映像のピントが甘くなると瞬時に修正され、常に映写技師さんの眼と技術に守られています。

今年最後のプログラムでは、DVDやTVモニターではなかなか正しく全画面を表示・鑑賞することがしにくい、シネマスコップを特集します。仮設スクリーンでありながらも最大限の大きさを確保したMoMAK Filmsのスクリーンで、多くの方

と映画鑑賞体験を共有できることを願います。フィルムでの映画上映の環境が減っている現在、MoMAK Filmsが、“フィルム(=映画)を観る場”の意義と、そして、その場を支える人と技術の重要性にも、あらためてご検討いただける機会になれば幸いです。

富田美香(立命館大学映像学部准教授)

